

一般会計当初予算

富士市の昭和53年度予算は、現下の経済情勢から厳しい財政運営が予想される中で、都市の質的転換をめざした「豊かさと充実した市民生活の実現」を市政執行の基本目標にして国の景気回復にも資するため、重要事業の選択と財源の重点的配分につとめ予算編成を行いました。財源的には、市税に占める法人関係の税の伸びが期待できず、予想以上の財源難に当面したが市立中央病院の増改築、公共下水道、中小河川の整備防災対策、義務教育施設の整備などの予算化をはかりました。その結果、新年度における予算規模は一般会計が252億2,800万円、企業会計を含む特別会計が134

億9,029万円の合計387億1,829万円となります。前年度当初予算に比較して、一般会計にあっては29億3,800万円の増で13.2%、特別会計では27億9,067万円増で26.1%の伸びを示し、総体的には、57億2,867万円、17.4%の増加となりました。

また、これらの予算の執行に必要な財源であります。が、一般財源の市税収入は、法人関係の伸びが期待できず52年度対比13.3%増の137億9,431万円を見込みましたが各種事業の推進にあたっては、国の地方財政計画と同様、新年度も市債等の特定財源に相当額を依存せざるを得ない結果となっています。



